

平成 20 年度 事業報告書

1. 事業規模 (全体)

理事数	14名(定員 14名以内)	評議員数	27名(定員29名以内)	
設置機関	法人部門	仙台大学	明成高校	合計
教職員数	8名	160名	77名	245名
学生・生徒	入学者数	595名	386名	981名
	在籍者数	2,162名	1,164名	3,326名
	卒業生数	479名	372名	851名

(学校法人基礎調査・学校基本調査・学校法人実態調査から)

2. 事業規模 (機関別)

(1) 仙台大学 <宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2番18号>

設置学校	学部・コース等	入学者数	在籍総数	
仙台大学	大学院 スポーツ科学研究科 ・ 体育科学領域 ・ 生涯スポーツ科学領域 ・ コーチング科学領域 ・ 体力科学領域 ・ 健康福祉科学領域	19	39	
	体育学部	体育学科 ・ スポーツコーチングコース ・ スポーツトレーナーコース ・ スポーツマネジメントコース	322	1,225
		健康福祉学科 ・ 健康支援コース ・ 福祉レクリエーションコース	128	517
		運動栄養学科	79	310
		スポーツ情報マスメディア学科	47	71
	合計	595	2,162	

(2) 明成高校 <宮城県仙台市青葉区川平2丁目26番1号>

設置学校	学部・コース等	入学者数	在籍総数
明成高校	調理科 [全日制課程]	93	291
	普通科 [全日制課程]	293	873
合計		386	1,164

3. 事業概要

(1) 法人全体

① 人事・組織関係

- ・ 学長・校長交代に伴う業務体制の円滑な移行・推進を企図・実施。
- ・ 大学における任期制教員制度に基づく再任審査を実施し、審査希望確認後、該当者全員再任。

- ② 介護福祉士養成制度改変に伴う養成施設としての諸手続の実施
- ・介護福祉士・社会福祉士の養成制度が改変となったことから、仙台大学については、健康福祉学科における介護福祉士および社会福祉士養成について学則(カリキュラム)変更手続、明成高校については、介護関係の専門学科設置に係る寄附行為変更手続および学則(カリキュラム)変更手続に加えて、厚生労働省に対する福祉系高校指定申請、宮城県に対する介護職員基礎研修課程設置手続などを実施。

③ 施設整備

- ・明仙バスケ・ラボの竣工を記念し、圏内バスケットボール関係者を招いて秋田県能代工業高校との招待試合により柿落としを実施。(7月)
- ・宮城県仙南総合プール指定管理者の指定申請(不採択)。
- ・船岡南所在の国有地購入について入札。(2月)

④ 公的機関による調査などへの対応

- ・私立学校運営状況現地調査を受検。(9月)
- ・公認会計士監査

受検日	4/ 4	4/22	5/28	6/11
	8/26	10/28	1/23	3/23

- ⑤ 高齢者雇用安定法の継続雇用に関し高校定年退職者案件の宮城労働委員会係属。
(私立学校法および教員の資質向上その他教育振興基本計画が要請するところを踏まえ適正な判断を仰ぐこととしている)

⑥ 私学振興助成に関する活動

- ・第31回宮城県私学振興大会に参加。(10月)
- ・宮城県議会議長に対し「私立高等学校等への助成強化」に関する請願。(11月)

(2) 仙台大学

① スポーツマスメディア研究所 (ISIM) の開所

- ・開所記念としてアルペールビル五輪ノルディック複合団体金メダリスト三ヶ田礼一氏(岩手県体育協会)を招きでフォーラムを開催(4月)。バスケ・ラボ併設の研究所分室で報道関係者等を招いて“スポーツを考える会”を開催(7月)。

② 現代G.Pの取組み

- ・平成19年度に現代的教育ニーズ取組み支援プログラムとして文部科学省の採択を受けた『地域密着型の健康づくり支援システムの構築』事業が2年目を迎え、3月に地元柴田町で中間報告会を開催し、平成20年末現在で健康教室を38回開催し、柴田町民626名、大学から教職員・学生合わせて269名の参加があったことその他、順調に事業が進行していることを報告。

③ 教育改革の取り組み

- ・大学教学組織の改変
教務部を教育企画部に改組、教育改善企画委員会の設置など、FD対応。
- ・学科毎にディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーを再構築、HP公開。
- ・「FDネットワークつばさ」に参加、統一方式による学生授業評価システム導入
- ・学部共通の「学士力基盤科目」設定、各学科の主要科目を再確認

③ 地域連携

- ・スポーツシンポジウムを開催(主催は仙台大学、河北新報社、仙台市)
「地域で子供の体力・運動能力を育てよう」をテーマに、ロサンゼルスオリンピック女子バレーボール銅メダリスト三屋裕子氏の基調講演やシンポジウムを実施。(2月)

- ・第4回健康福祉研究会を開催(仙台大学主催)
文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官矢幅清司氏の「大学に求められる福祉分野の人材育成」と題した特別講演その他の研究会を実施。(3月)
- ・(株)東北リコーと特定健診制度への対応としてノルディックウォーキング運動で連携(6月)
- ・国土省国営みちのく杜の湖畔公園(川崎町)とスポーツ活動への施設活用で協定締結(10月)
- ・東北放送、仙台放送に続き宮城テレビ放送とスポーツ科学・文化向上を目的に協定締結(2月)。

④ 大学間連携(学長関連業務)

- ・仙台学長会議への参加(5月・10月・12月)
東北学院大学が幹事校となって採択された戦略的大学連携支援事業に参加。
- ・全国体育系大学学長学部長会総会(東海大学霞ヶ関ビル)にて文部科学省青少年スポーツ局長等と情報交換。(5月)

⑤ 国際交流

(米国)

- ・NSCA(全米ストレングス&コンディショニング協会)主催のU19のストレングス大会に男女1年生各1名が参加。(7月)
- ・ハワイ州立大学連携によるアスレチックトレーニング・スクーリング(ビギナーズコース)に学生が参加(9月)。同アドバンスコース実施および英語研修導入のための視察(2月)
- ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校を訪問し運動栄養学科研修等について打合せ。(1月)

(中国)

- ・日中学生交流で訪中した学生が湖錦濤国家主席来日レセプションに出席。(5月)
- ・瀋陽師範大学と交流協定を締結(5月)。また北京オリンピック・サッカー予選視察を兼ねてノルディックウォーキングを紹介(8月)。
- ・東北師範大学において、高齢者の体力に関する日中共同研究の中間報告(9月)
- ・吉林体育学院50周年記念式典に参加、学長が学生によるICカード利用による健康データ自己管理システムについて紹介。(9月)

(台湾)

- ・国立台東大学の教育シンポジウムに参加、学長が学生によるICカード利用による健康データ自己管理システムについて紹介。(3月)

(韓国)

- ・平成19年度に協定締結した国立韓国体育大学から、李勝國総長来訪(7月)。女子柔道部による同大学施設での合同強化合宿に併せ理事長・学長が表敬訪問。(2月)

(タイ)

- ・大学祭にシーアカリンウィロート大学(SWU)の体育学部学科長が来訪。(11月)
- ・シーアカリンウィロート大学(SWU)を訪問、「国際交流協定書」を締結。(1月)

(フィンランド)

- ・カヤーニ応用科学大学学生3名が短期留学で来学。(5~6月)
- ・財団法人仙台市産業振興事業団主催の「企業元気フェア2009」でオウル大学等との共同研究「骨粗鬆症予防プログラム」に係るシンポジウムを開催。(2月)

(ペラルーシ)

- ・仙台国際ハーフマラソン大会参加の姉妹都市ミンスク市関係者と新体操指導者交流について打合せ(5月)。「歓迎交流会」で来日した同市関係者が仙台大学見学(11月)。

(パラオ)

- ・同国大統領就任式に出席(1月)。今後の提携について同国政府関係者と打合せ(3月)。

⑥ 学生の活動

(部活動)

- ・漕艇部 しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会開催(4月)
全日本大学選手権大会に柴田町体協および町民30名の応援参加を得てエイトが準優勝(8月)
全日本選手権大会 舵手つきフォア・舵手なしフォア(以上男子)、舵手なしペア(女子)各優勝
- ・体操部 全日本学生体操競技選手権大会 男子個人優勝
- ・柔道部 嘉納治五郎杯東京国際大会 女子63kg銅メダル
ワールドカップ・ブルガリア国際大会 女子63kg級優勝
- ・BLS部 全日本選手権大会 女子スケルトン準優勝
- ・トライアスロン部 日本学生デュアスロン選手権 女子個人総合優勝

(その他)

- ・仙台市、岩沼市、柴田町各教育委員会が平成20年度小・中学校での学校支援ボランティア活動学生に感謝状授与。(3月)

(北京オリンピック)

- ・健康福祉学科4年生がオフィシャルスポンサー「日本マクドナルド(株)」から代表派遣

(3) 明成高校

① 学校教育法に基づく学校評価の実施

- ・「明成高等学校『学校評価』会議」(江陽グランドホテル)を開催、生徒・保護者による科、コース毎のカリキュラム内容、学校行事、部・生徒会活動、生活・進路指導等アンケート結果に基づく1年間の達成状況、課題と改善策その他の自己評価につき、学識経験者、民間企業、小・中学校校長、地域代表者等の外部評価委員による学校評価を受検。

② 高校非常勤講師につき月当たり授業実施実績に応じた給与支給制度(出来高払い)へ改定

③ 調理科教育

- ・“MISO de SMILE”(ミソ・デ・スマイル)という、ユニークな即席みそ汁を考案し実用新案登録を行い「みやぎものづくり大賞」グランプリを受賞。「韓国青少年博覧会」の招待を受け10名の生徒がアジアの高校生に即席みそ汁“MISO de SMILE”を紹介。
- ・「はし」の持ち方が一目でわかるユニークな企画を商品化、小学校を訪問しはしの使い方の指導、食育紙芝居「お豆の気持ち」を披露。(4月)

④ 国際交流

- ・“21世紀東アジア青少年交流計画”に伴うインド人高校生の来校。(6月)

⑤ 生徒の活動

(部活動)

- ・埼玉インターハイに5つの運動部(男女バスケ・男女体操・陸上)が宮城県代表で出場。
- ・男子バスケ部 3年生1名がU-18アジア選手権東アジア予選の代表12名の一人に選出
埼玉インターハイ(8月) 2008ウィンターカップ(12月) ベスト8
バスケットボール全日本選手権(1月) 東北代表で出場
- ・女子バスケ部 2008ウィンターカップ(12月) 出場
- ・陸上競技部 東北地区陸上新人大会(9月) 男子円盤投げ 優勝
全国都道府県対抗男子駅伝高校代表 双子の男子1年生出場(1月)

監査報告書

平成21年5月25日

学校法人 朴 沢 学 園
理 事 会 御 中

学校法人 朴 沢 学 園
監 事 岩 崎 悌 二
監 事 恵 美 文 雄

私たちは、学校法人朴沢学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の平成20年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)における財産目録および計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び付属明細表)を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上